

おばあちゃん
と
おいしい夏

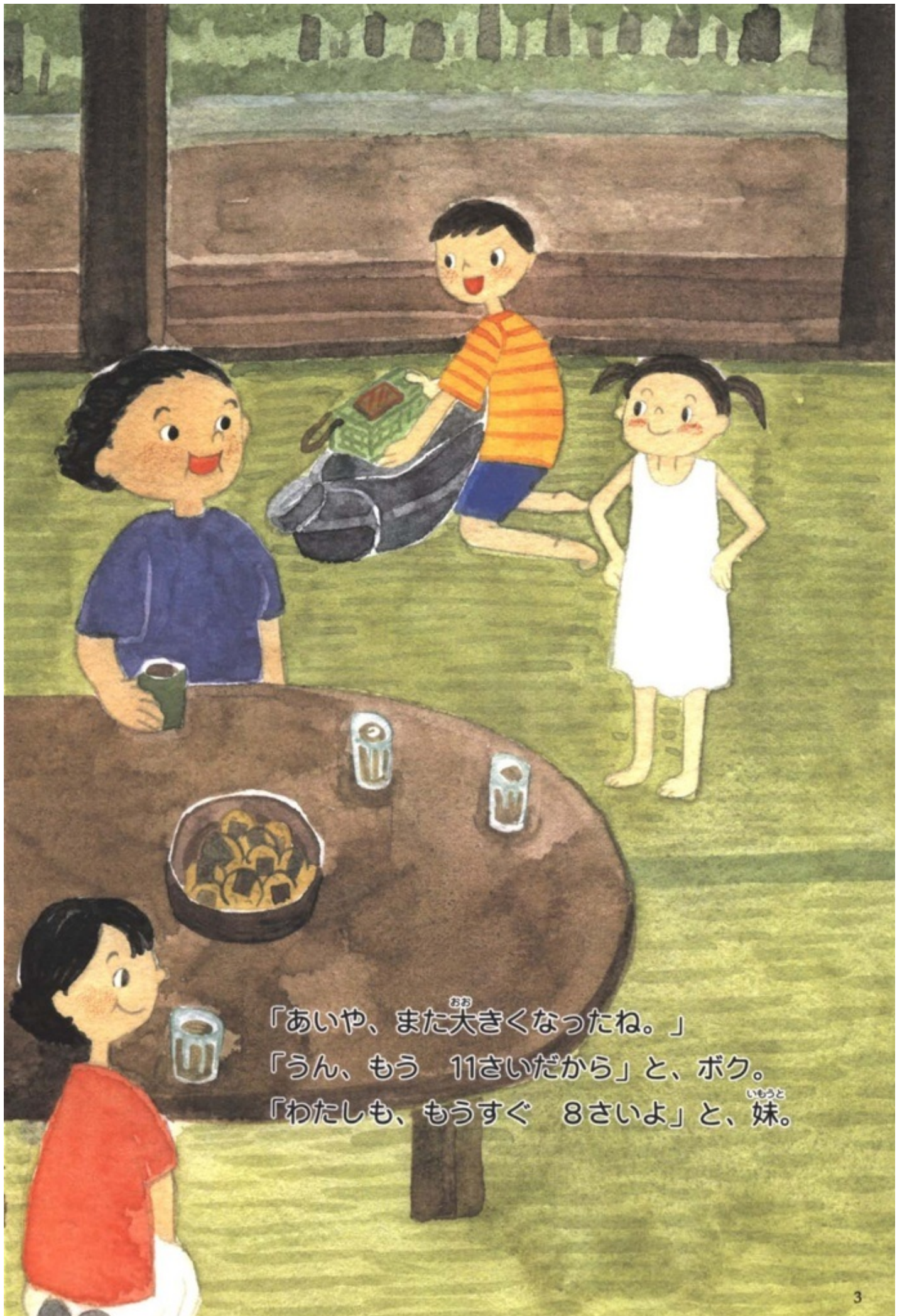
まつもと ひろし
松本洋志・さく
こいけ ゆか・え



「おばあちゃん、今 着いたよ。」
夏休みが 来ると、
ボクと 妹は おかあさんに 連れられて、
おばあちゃんの 家に行く。
「あらあ、よく来たね。早く 上がりなさい。」
おばあちゃんが、うれしそうな顔で
げんかん口まで 出むかえてくれる。







「あいや、また^{おお}大きくなったね。」
「うん、もう 11さいだから」と、ボク。
「わたしも、もうすぐ 8さいよ」と、^{いもうと}妹。



「おばあちゃん、セミ ^くとって来るね」
となりの家^{いえ}で いっぱい ^な鳴いてる。
「わたしも ^い行く！」
妹^{いもうと}の^{こえ}声が、うしろから ついてくる。





となりの家は あき家だ。
大きな木が、いっぱい しげっていて、
そこらじゅうに セミがいる。
それも アブラゼミだけじゃなくて、
大きくて 羽が とう明な クマゼミもいる。
ボクと 妹は、あみを持って、そうっと 木に近よる。
「えいっ！」
クマゼミが、あみの中で バタバタと
羽音を 鳴らしている。

「おばあちゃん、セミ とったよ、それも クマゼミだ」
「どれどれ、見せてごらん」
ボクは、
クマゼミと アブラゼミと ミンミンゼミで いっぱいの
虫かごを、おばあちゃんに 見せる。

「うわ、いっぱいだね」



「スイカがあるよ、^た食べんね」

「わーい、スイカだ」

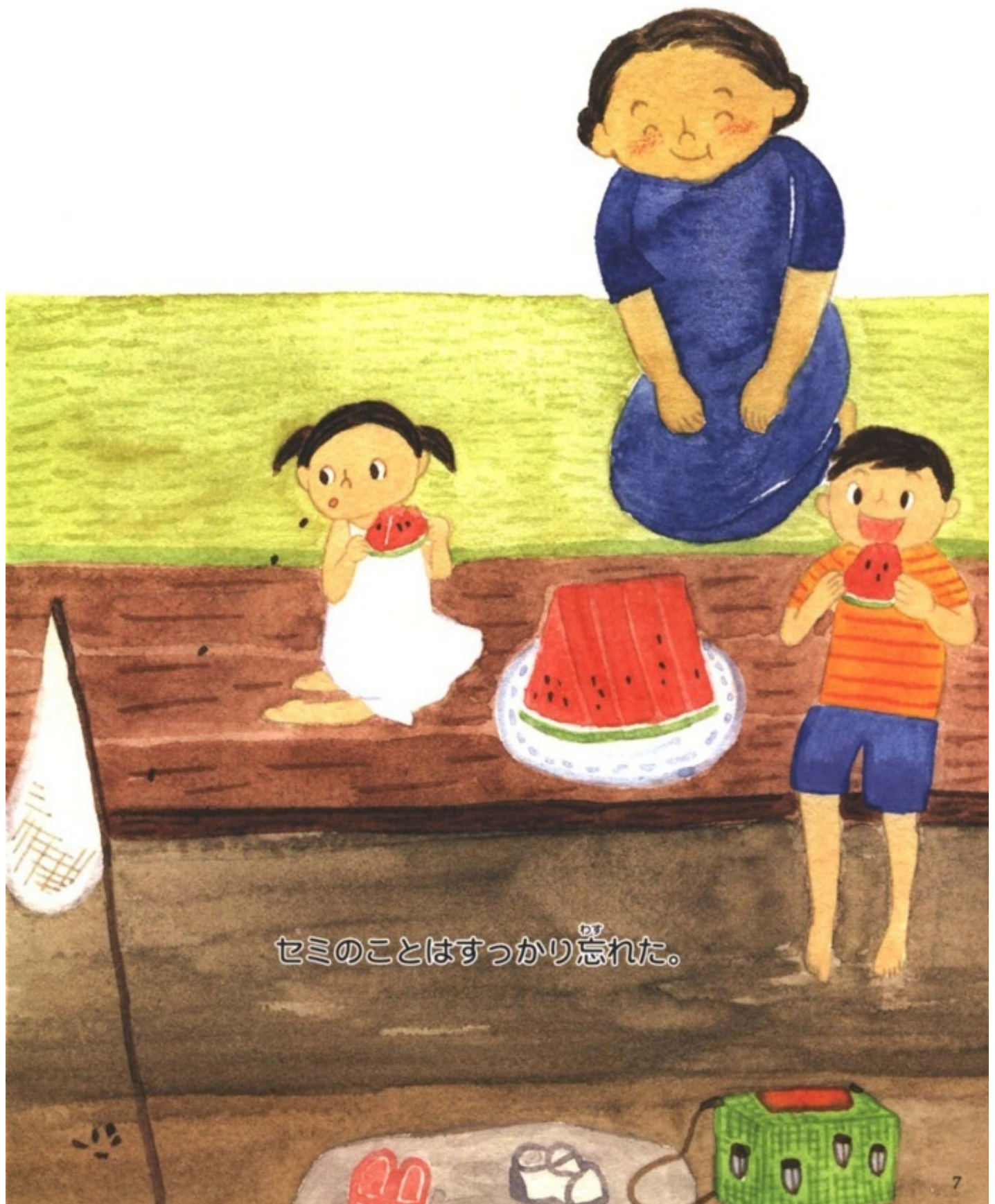
おばあちゃんの家で^{いえ} ^た食べる スイカは、
^せ世界一 ^{かい} ^{いち} おいしい。

でっかい ^{さん} ^{かく} ^{けい} 三角形。

まっ赤な中に ^か ^{なか} ^{くろ} 黒ポチのタネが いっぱい。



あまーい汁を、ジュルジュル たらして、
がぶがぶ 食^たべると、
おいしすぎて、



セミのことはすっかり^びれた。



「おばあちゃん、^{まえ}前の水路で ^{あそ}遊んでくるね」

^{さかな}魚が いるかな。

「わたしも ^い行く！」

^{いもうと}妹は、やっぱり ついてくる。





この町は、昔の 武家やしき。
だから、家の前には
石垣でできた 小さな 水路が、通っている。
メダカや フナも 泳いでいる。
小さな カニだっている。



ボクは、水路に 足を 入れる。

つめ
冷たい！

いしがき
石垣の中から、カニが はい出てきた。
うえ
上から、グイっと 押さえこむ。
き
ハサミに 気をつけながら、
こうらを つかむ。

やった!





「おばあちゃん、カニとったよ」

「どれどれ、見せてごらん」

ボクは、

カニと メダカと フナで ippaiの バケツを、
おばあちゃんに 見せる。

「うわ、ippaiだね」

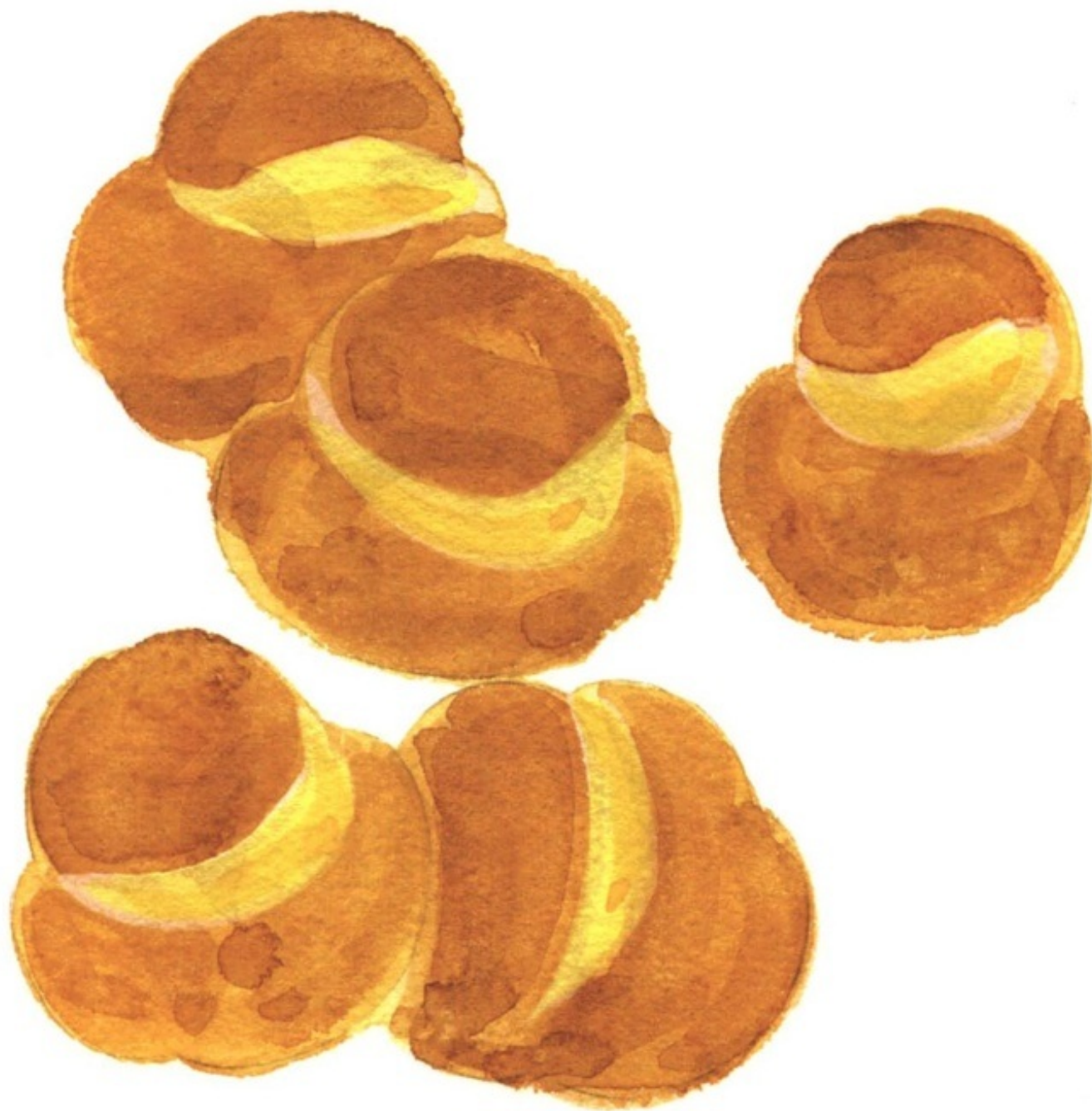


「シュークリームを ^{つく}作ったよ、^く食べんね」

「わーい、シュークリームだ」

おばあちゃんの^{つく}作るシュークリームは、
^{せ かい いち}世界一 おいしい。

こんがり^や焼けた、^{まる}丸い^{かわ}皮。
^{なか}中には、とろけるような クリームが いっぱい！



クリームを チュウチュウすって、
皮を サクサク 食^たべると、
おいしすぎて…



カニのことは すっかり 忘^{わす}れた。



「おばあちゃん、うら庭^{にわ}で 遊^{あそ}んでくるね」
アゲハが いるかな。

「わたしも 行^いく！」





うら庭は、小さな 畑になっている。
おばあちゃんは、野菜や 花を いっぱい 育てている。
すると、花が大好きなチョウチョウが とんでくる。
モンシロチョウや モンキチョウ、そして アゲハだ。
ボクは、ひまわりの葉っぱで休んでいるアゲハに、
うしろから、そおっと 近づく。
息を 止めて、いっきに 羽を つかむ。



やった!

「おばあちゃん、アゲハ とったよ」
「どれどれ、見せてごらん」
ボクは、
アゲハと トンボと カマキリの入った 虫かごを、
おばあちゃんに 見せる。

「うわ、いっぱいだね」

「コロッケを作ったよ。食べんね」

「わーい、コロッケだ」

おばあちゃんの作る コロッケは、
世界一 おいしい。

UFOのような たわら型。

ちっちゃいから ひと口で 食べられちゃう。

中は、

ホッカホッカの ジャガイモと ひき肉が いっぱい！



しょうゆを かけて、
ごはんに のつけて、
いっきに 食^たべると…



おいしすぎて、アゲハのことは すっかり 忘^{わす}れた。

「おばあちゃん、海^{うみ}に行くよ」
平泳^{ひらおよ}ぎ 練習^{れんしゅう}しなきや。

「わたしも 行^いく！」





^{ある}歩いて ^{かい すい}すぐのところに、海水よくじょうがある。
8メートルの ^{だい}とびこみ台もある。
^{じもと}地元のこどもたちが、いっぱい泳いでいる。
ボクも ^ま負けずに ^{れんしゅう}練習だ。
^{ことし}今年は、^{ひら およ}平泳ぎを マスターしよう。
^{いもうと}妹は、^{きも}気持ちよく、うきわで ぷかぷかしてる。





うみべ
海辺で、ヤドカリ 発見。
ついでに アサリも 取っちゃえ。

やった!







「おばあちゃん、ヤドカリ とったよ」
「どれどれ、^み見せてごらん」
ボクは、
ヤドカリと アサリと ナマコの^{はい}入ったバケツを、
おばあちゃんに ^み見せる。

「うわ、いっぱいだね」

「カキ氷を ^{ごおり} 作ったよ。 ^た 食べんね」

「わーい、カキ氷だ」^{ごおり}

おばあちゃんの作る ^{つく} カキ氷は、^{ごおり}

^{せ かい いち} 世界一 おいしい。

^{ごおり} 氷かき器を ^き ガシガシ ^{まわ} 回して、

ふんわり ^{かき} つみ重なった ^{ごおり} 氷の ^{こ やま} 小山に、

^{とく} 特せいの シロップを かける。





ストロベリーや メロン、ミルク味も あるよ。
頭に ガーンとくる 冷たさと、
あまーい シロップの 組み合わせに…



おいすぎて、ヤドカリのことは すっかり 忘れた。

きょう
今日は、おばあちゃんに バイバイする日。

なつ やす
夏休みも もうすぐ お
終わり。

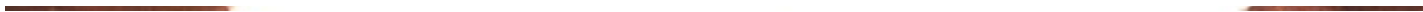




とっても さびしいよ。

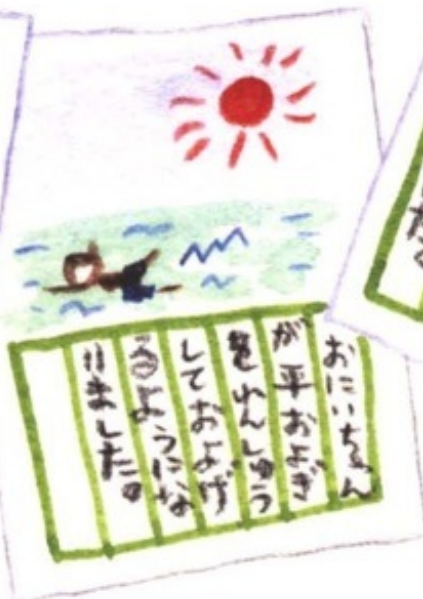


「おばあちゃん、^{え にっ き} 絵日記 ^{つく} 作ったよ」
「どれどれ、^み 見せてごらん」
ボクと ^{いもうと} 妹は、おばあちゃんの家でのことを ^か 書いた
^{え にっ き} 絵日記を ^み 見せた。





「うわ、いっぱい ^{あそ}遊んだね、^{ことし}今年も」





「とうきびをゆでたよ。食^たべんね」

「わーい、とうきびだ」

おばあちゃんのゆでた とうきびは、
世界^{せかい}一^{いち} おいしい。

なが〜いヒゲが ついたままの 皮^{かわ}をむくと、
中^{なか}から、湯^ゆげといっしょに 黄色^{きいろ}いつぶが
ぎっしりつまった とうもろこしが 見^みえてくる。

ちょっと しょっぱい汁^{じゅう}を すすりながら、
ムシャムシャと 食^たべていく。
最後^{さいご}は、ガーと 歯^はを立^たてて
脱^{だっ}穀^{こく}機^きのように つぶを 口^{くち}の中^{なか}に かり取^とっていく。

おいすぎて、さびしいことは ちよつとだけ ^{です} 忘れた。





おばあちゃん、そろそろ ^{かえ} 帰るよ。
また、来るからね。



おばあちゃん、

おいしい夏^{なつ}を、いつも ありがとう。
ずっと ずっと、忘^{わす}れないからね。

おばあちゃん、^{だいす}大好きだよ。



